社会的絆と時間的展望が迷惑行為に与える影響について

○関 嵐月¹・岡本 英生²(奈良女子大学大学院人間文化研究科¹・奈良女子大学生生活環境科学系²)

キーワード: 社会的絆, 時間的展望, 迷惑行為

The effect of social bond and time perspective on social annoyance

Lanyue GUAN¹ and Hideo Okamoto²(Graduate School of Humanities and Sciences, Nara Women's Univ.¹, Division of Human Life and Environmental Sciences, Nara Women's Univ.²)

Key Words: social bond theory, time perspective, social annoyance

目 的

Hirschi (1969) は, 犯罪や非行の抑制要因を説明するために, 社会的絆理論を提唱した。社会的絆は, アタッチメント, インボルブメント, コミットメント, そして規範信念の4つの概念から構成され, 社会と個人の間に存在する絆である。それらの社会的絆が弱まるあるいは壊れることによって, 人は犯罪を行う。多くの先行研究の結果はこの理論を支持している。

Boniwell & Zimbardo (2003) によると, 時間的展望とは, 意思決定をしたり行動したりする時にさまざまな時間的カテゴリーや時間的枠組に焦点付けを行う主観的な概念であり, 個人のほとんどの行動に最も影響を与えているものの1つと考えられる。Zimbardo & Boyd (1999) は, 時間的展望を過去肯定, 過去否定, 現在快楽, 現在運命, そして未来の5つの下位尺度に分け, 調査を行ったところ, 現在快楽は喫煙, 飲酒, 危険運転などに関係していることが明らかになった。

社会的絆と時間的展望はいずれも犯罪, 非行に対する影響が大きい要因と考えられるが, どちらがより大きな影響を与えているのかは分かっていない。そこで, 本研究は, 社会的絆と時間的展望が非行・犯罪の近接概念である迷惑行為に与える影響を比較する。

方 法

調査協力者: 調査協力者は, A大学の学生209人である。そのうち, 回答に欠損値がない152人(男123名, 女29名), 平均年齢18.63歳, SD=1.01を分析に用いた。
調査内容: 社会的絆は, 先行研究を参考にし, 親への愛着, 学校への愛着, インボルブメント, コミットメントと規範信念について50の質問項目を作成し, 5件法での回答を求めた。時間的展望は, 日本語版ジンバルドー時間的展望尺度を用い, 5件法で回答を求めた。迷惑行為は, 過去半年間14の項目について, 頻度を5件法で尋ねた。
調査時期及び方法: 2019年4月に無記名式で参加が任意であるアンケート方式より実施した。

結 果

社会的絆尺度についての回答の偏りが大きい項目を除いた45項目で, 因子分析を行ったところ, 4因子を得た。うち2因子は α 係数が低かったため, 残り2つの因子(「学校への絆($\alpha=.86$)」「親への愛着($\alpha=.76$)」)のみを分析で用いた。

日本語版ジンバルドー時間的展望尺度については, オリジナルどおり下位尺度ごとに集計した($\alpha=.67\sim.79$)。

迷惑行為項目については, 回答の偏りが大きい項目を除いた5項目の合計を用いた($\alpha=.66$)。

従属変数を迷惑行為の総得点, 独立変数を時間的展望(過去肯定, 過去否定, 現在快楽, 現在運命, 未来)と社会的絆(学校への絆, 親への愛着)とし, 重回帰分析(ステップワイズ法)を行った(Table1)。

学校への絆と未来に対する感情は迷惑行為に負の影響を与えていることが示された。つまり, 学校への絆と未来志向の傾向が強いほど, 迷惑行為をしにくくなる。なお, この学校への絆と未来の迷惑行為に対する影響の大きさはほぼ同じであった。

考 察

社会的絆の下位尺度のうち, 学校への絆が迷惑行為に負の影響を与えることがうかがえた。また, 時間的展望の下位尺度のうち, 未来が迷惑行為に負の影響を与えることがわかった。

Zimbardo & Boyd (1999) によると, 未来尺度については, 将来の目標や報酬のために計画を立て, 努力する態度を表し, 新奇性やセンセーションシーキングの低さと関係している。それ故に, 未来尺度の得点の高い人が将来の目標のために, 迷惑行為をしないと考えられる。また, 本研究で用いた学校への絆の内容は, 学校や先生に対する尊敬と信頼, そして勉強に対する意欲と行動を表しており, この尺度の得点が高い人は学業に専念し, 学校に不名誉なことをしたくないため, 迷惑行為をしないと考えられる。

引用文献

- Boniwell, I., & Zimbardo, P. (2003). Time to find the right balance. *The Psychologist*, 16, 129-131.
Hirschi, T. (1969). *Causes of delinquency*. Berkeley: University of California Press.
下島裕美他 (2012). 日本版Zimbardo Time Perspective Inventory (ZTPI) の因子構造の検討 パーソナリティ研究, 21, 74-83.
Zimbardo, P., & Boyd, G. (1999). Putting Time in Perspective: A Valid, Reliable Individual-Differences Metric. *Journal of Personality and Social Psychology*, 77, 1271-1288

Table1 重回帰分析の結果

	Beta	VIF
未来	-.204*	1.221
学校への絆	-.202*	1.221
R ²		.117*

**p<.01, *p<.05